

JA全農ウィークリー
WEEKLY

2
面

台湾に輸出拠点を開設し記念式典開催

3面

群馬で全国野菜園芸技術研究会を開催



全国野菜園芸技術研究会群馬大会参加者が群馬県本部の園芸作物生産実証農場を視察(3面)



競馬の本場・英国パークシャー州アスコット競馬場
で来場者に日本産コシヒカリを原料として英国で
製造した米ビールをアピール(2面)



鏡開きで全農台湾事務所設立を祝う、左から台湾全農インターナショナル(株)の野末知裕総経理、(株)みずほ銀行の安原貴彦常務執行役員、大澤憲一副会長、日本台湾交流協会台北事務所の沼田幹夫代表、神出元一理事長、台北市日本工商会の大橋悟理事長(2面)

- ## 2 競馬の本場・英国で日本産食材アピール (全農インターナショナル欧州株)

- ### 3 ジャパンジョッキーズカップ 2018 優勝チームに県産農畜産物(岩手県本部)

- #### 4 全農杯全日本卓球選手権大会を開催 (広報部)

- ## 北海道北見市でカーリングキャンプ開催 (広報部)

- ## 5 ゼノベーターからのメッセージ ②(総合企画部)

- ## 6-7 自己改革は計画どおりに進捗しんちよく(広報部)

- ## 8 JAズームイン(JAレーク伊吹)

- 9 県本部だより(三重県本部)

- 10 畜産事業の研究最前線①
飼料畜産中央研究所 養鶏研究室
(畜産生産部)

- ## 11 全農ブロガーが情報発信中 (広報部)

- 12 「研Q室のヨーグルトドリンクタイプ」を
新発売(東北協同乳業株)

JAタウンショップ紹介

JA岡山西 星の郷特産館(岡山県)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



台北市内で台湾事務所設立記念式典

輸出伸びる台湾でさらなる拡大目指す

輸出対策部



全農は8月3日、台湾輸出拠点の開設を祝して台北市内で取引先やメディアら約100人を招き記念式典を開きました。



式典であいさつする大澤副会長

大澤憲一副会長はあいさつで、「全農は日本全国の幅広い食材を全て供給できる、ワンストップ機能を持つているので、ぜひ、活用いただきたい」とあいさつし、神出元一理事長は「台湾の皆さんと仲良くなつて、日本の農家が丹精込めて作った農畜産物をしっかりとお届けしたい」と述べました。

木、群馬からの農産物の輸出再開に向けて、台湾当局との間で最大限努力する」との応援演説をいただきました。

台湾現地法人の「台湾全農インターナショナル(株)」は5月から営業を開始しており、全農グループの輸出拠点としては、米国、英国、シンガポール、香港に次いで5カ所目になります。台湾は日本の農畜産物の輸出先では香港、米国に次ぐ第3位で、昨年9月には牛肉輸出が16年ぶりに解禁されました。



出席者に提供された日本産食材

全農グループは海外拠点を活用し、さらなる輸出拡大に取り組んでいきます。

News!



競馬の本場・英国で日本産食材アピール

来場者に和牛ロースト、英国で製造した米ビール振る舞う 全農インターナショナル欧州(株)



全農インターナショナル欧州株式会社は7月28日、農林中央金庫や日本中央競馬会と協力し、世界で最も権威のあるG1レースの一つ、「キングジョージ6世&クイーンエリザベスステークス」の会場(英国バークシャー州アスコット競馬場)で、有力馬主や調教師、メディアなど競馬関係者に日本の食文化をアピールするイベントを開きました。



来場者に和牛のローストを振る舞う

当日は和牛のローストと日本産コシヒカリを原料として英国で製造した米ビールを来場者に無料で提供しました。これまで和牛を食べたことがなかったお客さまはその独特の香りと風味に驚き大変喜んでいただき、また米ビールも非常に

好評を得ました。

このイベントを通じて、有力馬主をはじめとした英国の多くの方々に日本の文化と食材を紹介し興味を持ってもらうことで、日本を訪問する契機となることを期待しています。

全農グループは、このような海外拠点での活動を通じて訪日外国人観光客の拡大に取り組んでいます。



イベントを開いた英国バークシャー州アスコット競馬場



新技術を活用した「もうかる野菜経営」実現へ

第63回全国野菜園芸技術研究会群馬大会を開催

群馬県本部



群馬大会で全野研野菜園芸功績者を表彰

農林水産省の担当者による将来を見据えた産地の課題解決に向けた講演、首都大学東京の大澤剛士准教授による病害虫などの農業被害リスクに関する講演、開催地群馬県のキュウリ・トマト・イチゴの生産・流通・販売の事例発表の他、企業やメーカーによる園芸機器・資材・種苗の展示会もありました。

全国野菜園芸技術研究会は7月19日、群馬県高崎市の高崎市文化会館で「新技術を活用した『もうかる野菜経営』の実現」をテーマに「第63回全国野菜園芸技術研究会群馬大会」を開きました。



群馬県本部の園芸作物生産実証農場を視察

同研究会の大山寛会長は「群馬大会を通じて、全国の野菜生産者同士が顔を合わせ交流し、新しい技術や経営手法の事例を学び、参加者の野菜経営や、次世代の若者が農業経営に夢が持てる大会になれば幸いです」と話しました。

20日には、群馬県本部の園芸作物生産実証農場とJA佐波伊勢崎なす・きゅうり選果場で視察研修を行いました。



ジョッキーズカップ優勝チーム、優勝騎手に県産農畜産物贈呈

純情産地いわて×岩手競馬～ジャパンジョッキーズカップ2018に協賛

岩手県本部



優勝したチームJRAに岩手県産農畜産物の詰め合わせセットを贈呈

岩手県は古来より日本有数の馬産地で、人と馬の関わりが深い地域です。1884年には横浜、東京に次ぎ近代的な西洋競馬がスタートし、現在でも岩手競馬として多くのファンに親しまれています。

JRA、全国の地方競馬のスタージョッキーが盛岡競馬場に集結し、チーム制で勝負を決する「ジャパンジョッキーズカップ」は、東日本大震災からの復興支援を目的に2012年から始まり、岩手競馬の夏の風物

岩手県本部は7月16日、盛岡市の盛岡競馬場で開催された「ジャパンジョッキーズカップ2018」で優勝した内田博幸騎手率いるチームJRAに、「いわて純情豚一頭分相当」をはじめ県産農畜産物の詰め合わせセット（お米・和牛ステーキ・リンゴ）を贈呈しました。

詩として人気根付いていきます。

岩手県本部は、その趣旨に賛同し県産農畜産物の提供を通じ、第1回から継続的に大会をサポートしています。

贈呈した「いわて純情豚一頭分」はチームJRAのご厚意で、後日、盛岡競馬場で競馬ファンに振る舞われる予定です。

岩手県本部は、県産農畜産物の提供を通じ、地域のにぎわい創りと活性化に今後も貢献していきます



盛岡競馬場に集結したスタージョッキーら

News!



全農杯平成30年度全日本卓球選手権大会(小学生以下の部)を開催

石川選手が子どもたちにビデオメッセージで激励

広報部



子どもたちに石川選手がビデオメッセージ



開会式で子どもたちを激励の言葉を贈る山崎専務

開会式で全農の山崎周二専務が「国産の農畜産物をしっかり食べて、これからも頑張ってほしい」とエールを送ったほか、全農所属の石川佳純選手がビデオでメッセージを送り、子どもたちを激励。全国各地で開催された予選大会を突破した1195人が各種目の頂点を目指して熱い戦いを繰り広げました。

全農が特別協賛する「全農杯平成30年度全日本卓球選手権大会(小学生以下の部)」が7月27、28日に、兵庫県神戸市のグリーンアリーナ神戸で開催されました。



表彰式で入賞者に副賞を贈呈

いう異例のスケジュールになりましたが、子どもたちは最後まで全力を尽くし、戦い抜きました。全農は入賞者へ、兵庫県産「コウノトリ育むお米」と「但馬牛」、フェアプレー賞に徳島県産米「あきさかり」を贈呈しました。

また、全農ブースで「石川佳純(かずみん)カレー」を販売。隣の飲食ブースでもこの商品を使用したカレーライスを販売し、大行列になるほどの人気ぶりでした。

全農はこれからも、「ニッポン人の活躍を『ニッポンの食』で支える。」「のslowガンのもと、子どもたちの夢や成長を応援していきます。

News!



北海道北見市でカーリングキャンプ開催!

L S北見メンバーなどカーリングトップ選手が小学生を指導

広報部



カーリング教室に参加した小学生たち

日本カーリング協会(JCA)主催で全農が特別協賛し、関東と地元から集まった小学4～6年生の48人が参加しました。小学生たちは、LS北見の本橋麻里選手、吉田夕梨花選手、吉田知那美選手、SC軽井沢の両角友亮選手ら総勢12人のトップ選手からカーリングの手ほどきを受けました。ストーンを投げる際の姿勢や回転の掛け方、ブラシで氷をこするスワイプなど

「JA全農×JCAカーリングキャンプ2018常呂」が7月28日、北海道北見市のアドヴィックス常呂カーリングホールで開かれました。



カーリングを教える本橋選手(中央左)と吉田(知)選手(同右)

どを学び、最後に講師と共にミニゲームを楽しみました。

また、食に関する座談会も開き、本橋選手や吉田(知)選手は「普段から偏ったメニューではなくバランスの良い食事を心掛けている」「海外ではご飯を食べるように心掛け、日本から炊飯器を持参している」と、「スポーツと食」の重要性を伝えました。

トップ選手との触れ合いを通じ、カーリング普及の一助となりました。



東北～TOHOKU～ブランドの確立 「産地間協力」をキーワードとした新販売戦略の 提案について

岩手県本部 佐々木 章さん(全農東北プロジェクト)

東北6県本部の連携強化で ブランド力と販売力強化へ

本プロジェクトは、平成26年度新規事業提案制度で採択され、東北6県本部の連携強化を通じ「東北産農畜産物のブランド力と販売力強化」を図る枠組みを構築するため、27年度から全農本所と県本部でプロジェクトチームを組成し、取り組みを進めてきました。

国内市場が縮小する中、生産者の所得向上により貢献するためには、新たな販売戦略の構築が必要ではないかと考えたのが提案のきっかけです。当時、東北楽天イーグルスが東北6県からファンを獲得したことや、各県の祭り(仙台七夕祭り、青森ねぶた祭りなど)が東北六魂祭として一都市に集約した事例もあり、東北6県本部が互いに協力することで、「スケール」と「多様性」を強みとした販売戦略の選択が可能となり、これまでとは違う層に「東北」ブランドという新たな興味を誘発できる可能性があると考えました。

プロジェクトがどのポジションで 機能を発揮するか見極めに苦労

立ち上げ当初は、本プロジェクトがどのポジションで機能を発揮するか、見極めに相当苦労しました。そのため、平成28年度からの2年間は仮説・実証を行い、次の場面で「東北」という枠組みが優位性を発揮すると確認できました。

- ①「東北」という冠で農畜産物の付加価値販売に取り組む事業者のサポート
(例:「東北和牛」ブランド化支援)
 - ②広域で事業を展開したい異業種との連携
(例: JR東日本グループとの催事開催・商品開発、東北の7新聞社と東北の魅力発信)
 - ③“売れる商品開発”といった新規事業領域
(例: 食品卸と連携した加工品開発)
- 30年度からは、プロジェクト体制から専任担当者

(1人)の配置体制になり、枠組み構築に一步前進したと手応えを得ています。

東北の食
未来プロジェクト



全農東北プロジェクトマーク㊦と催事での東北一体となった売り場

新たな0.1をカタチにしようと 踏みこむ勇気と努力を

新規事業について検討を開始すると、既存事業領域に近い案件は「すでに実施している」「過去に断念した」といった壁にぶつかり、既存事業領域から離れた案件では「全農グループとして取り組む事業なのか」「実現性に乏しい」といったジレンマに陥りがちです。

本年度のZennovationのテーマは「全農×ANY」であり、前述の「実現性」という課題は、異業種とのコラボレーションなどで解決の糸口を見いだせると思います。

「ゼロに何をかけてもゼロ」です。

新たな0.1をカタチにしようと踏みこむ勇気と努力はとても尊いものであり、たとえカタチにならなくても、そのプロセスで得た知識、人脈、気づきは、今後のあなたのビジネスライフの幅を広げる一助になると思います。

数多くの提案、アイデアが今年も創造されることを強く期待しています。

自己改革は計画どおりに進捗

しん ちよく



平成29年3月に組織決定した「農林水産業・地域の活力創造プラン」に係る本会の取り組みの現時点の状況は、計画どおり進捗しています。【広報部】

1 生産資材事業

1 肥料事業

● 肥料の共同購入では、高度化成・NPK化成肥料の一般銘柄について、従来の全国400銘柄を17銘柄に絞り込み、29肥料年度春肥では、例年の対象銘柄の実績をほぼカバーする7万トを超える予約数量を積み上げ、30肥料年度秋肥からは、新たに「普通化成一般」と「苦土入り高度化成」を対象品目に加え、全国約550銘柄を25銘柄に集約。

● 29肥料年度春肥では、入札によりメーカー数を14社33工場から8社13工場に削減、銘柄当たりの生産数量を約250トから約4000トに拡大し、製造固定費を引き下げ、供給範囲も全国一



担い手直送規格統一ロゴ「メガ得」マーク

2 農薬事業

● ジェネリック農薬は、開発候補剤律からブロック単位に変更し、配送コストを圧縮。これらの結果、おおむね1〜3割の価格引き下げを実現。

● 29肥料年度春肥では、例年の対象銘柄の実績をほぼカバーする7万トを超える予約数量を積み上げ、30肥料年度秋肥からは、新たに「普通化成一般」と「苦土入り高度化成」を対象品目に加え、全国約550銘柄を25銘柄に集約。

● 水を絞り込み、1剤目を開発中。

● 水稲除草剤は、29年度は約100品目削減し、約340品目へ集約。

● 農薬担い手直送規格は、通常規格と比較しおおむね2〜3割の価格引き下げを実現。28年度実績2・1万鈴から大幅に伸長し、29年度は5・3万鈴へ拡大。

3 農業機械事業

● 低価格モデル農機の共同購入では、国内メーカー4社に対し生産者の声を反映したトラクター（60馬力クラス）の開発を29年9月に要求。

● 全国目標台数1000台（30・32年）とし、共同購入を希望する生産者から事前申し込みを取りまとめ、積み上げた台数を背景に30年6月に入札により購入ト

ラクターを決定。標準的な4社同クラスと比較し、概ね2〜3割の価格引き下げを実現。



共同購入トラクターに決まったYT357J

4 段ボール事業

● 大型コンバインシェアリースチーム（収穫時期が異なる4〜5人程度の生産者を1チームとして1台の機械を共同利用）では、29年度に10チーム（37経営体）組成。利用結果は、565日／10台（1経営体当たり約15日・15鈴）となり、購入した場合と比較し2割程度のコスト低減を実現。

● 段ボールの共同購入では、標準パレット寸法などを基準に、3品目（タマネギ、サトイモ、ピーマン）の全国標準段ボール箱規格（44規格）を設定。対象245JAのうち、106JAが購入意向を示



船積み能力を増強した全農グレイン株

し、年間約300万ケース分の積上数量に基づき、ブロック別・品目別見積もり合わせを29年10月に実施し、基本価格条件を決定。

● 30年3月から3品目の全国標準段ボール箱の出荷を開始。3品目で約1400ある規格を県域独自の規格集約と合わせて、約3割程度削減の見込み。

5 飼料事業

● J A西日本くみあい飼料(株)では29年6月から倉敷新工場が稼働、9月に水島工場、30年3月に神

2 販売事業

1 米穀事業

● 29年産米は、直接販売102万ト(計画100万ト)、買取販売36万ト(計画30万ト)と、計画を達成見込み。30年産米では、直接販売計画125万ト、買取販売計画50万トの達成を目指す。

● 29年3月の(株)スシローグローバルホールディングスへの出資に続き、29年10月、木徳神糧(株)と業務提携契約を締結、30年4月に出資。

● 30年7月、佐藤食品工業(株)と資本業務提携の合意、8月に出資。需要に応じた生産と安定的取引拡大のため、実需者ニーズに基づく多収品種などの作付提案・契

戸工場の製造移管が完了し、現在、坂出工場の製造移管を実施中。

● 製造数量が月間10ト以下の小ロット銘柄について、約500銘柄(28年4〜6月期)から29年度は約340銘柄まで集約。

● 米国では全農グレイン(株)の原料船積能力を増強(年間1900万ト、現行比550万ト増)し、30年4月から稼働するとともに、穀物集荷を担うCGB社の内陸の集荷拠点の拡充を実施中。

2 園芸事業

約栽培の拡大を重点的かつ速やかに進めていくとともに、実需者を明確にした事前契約(播種前・複数年契約など)の拡大に取り組む。

● 29年度の直接販売実績は3243億円(計画3200億円、前年比106%)と、計画を達成した。30年度は直接販売計画3300億円の達成を目指す。

● 生産面においては、輸入野菜の国産への置き換えを目的に、キャベツ、レタス、ブロッコリーなど加工・業務用野菜を中心とした生産振興に取り組むとともに、パートナー企業と連携した収穫支援など農業労働力支援の取り組みを拡大する。

● 30年3月に、デリカフーズホールディングス(株)、カネマサ流通グループ、エム・ヴィ・エム商事(株)との業務提携契約を締結。3社との国内契約産地づくり、物流合理化、共同商品開発などに取り組む。

3 輸出事業

● 29年度J Aグループの輸出実績は160億円(計画174億円、前年124億円)となり、計画

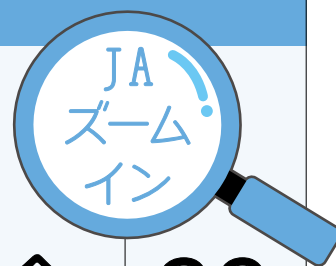


香港事務所設立記念式典を開催(30年4月)

比は92%と計画未達となったものの、前年比は129%と、前年を上回った。

● 輸出障壁が低く、伸長が見込める重点輸出国7カ国・地域(香港、シンガポール、タイ、英国(欧州)、中国、台湾、米国)を設定。米国、英国、シンガポールに続き、30年4月に全農香港事務所を開設、8月には台湾でも事務所を開設した。

● 国内産地づくりについては、30年度に輸出用低コスト多収米実証圃を100ヶ所設置、青果物の輸出用産地を8カ所開拓することを目指して取り組みを進める。



29年産米から全銘柄

全量買取販売に



JAレーク伊吹(滋賀県)



概要 平成30年3月31日現在

正組合員数	5251人
准組合員数	7204人
職員数	223人
販売品取扱高	13億4千万円
購買品取扱高	10億5千万円
貯金残高	1320億9千万円
長期共済保有高	3402億3千万円
主な農畜産物	米、麦、大豆

JAレーク伊吹は、平成29年産米から県下16JAに先駆けてうるち・もち全銘柄全量買取販売に移行しました。

量が確実に増える保証もなく、取り組みについては、賛否両論がありました。結果として、買取販売はリスクを伴うのは当然ですが、取り組んでこそ分かる想定以上の多くのメリットが

あり、取り組みは大成功であったと考えています。

農家所得の増大へ 必要な買取方式

共同計算方式は農業協同組合の基本ですが、農協法の一部改正によりJAは販売事業で高収益を実現し、その収益をもって農家所得の最大化を図る事になります。そのためには、概算金支払いから追加払いや調整払いなどを含め、1年半後にしか最終価格が通知できない共同計算方式から、農家手取りが分りやすい買取販売価格の提示と、品質と出荷数量に応じたメリハリのある加算をすることにより、生産者に応じた農家所得の増大を図ることが必要

と考えます。

中でも、カントリー出荷についてはもみすりが完了しない時点で、推定で出荷米とくず米の買取を行わなければならず、非常に大きなリスクを伴うことになりましたが、卸の要望に応じた品質調製出荷を行うことで、歩留まりを高め農家所得の増大が図れます。

加工・業務向け タマネギにも採用

また、30年度から新たな水田野菜の振興と農家所得の増大を目的に、買取販売方式による加工・業務用タマネギの産地化を目指した普及拡大にも本格的に取り組んでいます。滋賀県本部を通じて事前契約を行い、

作付け前に買取価格を提示することで、生産者はどれだけの収量を確保できれば採算が取れ、それ以上に収量を確保できればどれだけのものうけになるか計算できることになり、収量性を高めれば高めるほど確実に農家所得の増大が図れることとなります。



水稻の生育状況を確認

29年産米から全量買取販売に移行した水稻の収穫

県本部 だより

三重県本部

自己改革 実践中!

県産畜産物の販売拡大へ 「松阪パックスセンター」稼働 小ロット対応の加工場に直売所併設

三重県本部の子会社、株式会社JA全農みえミートは2018年4月に、県産畜産物の加工・販売拠点となる「松阪パックスセンター」を開設しました。

肉事業はこれまで、同社四日市事務所の牛・豚包装肉製造課ですべて製造していましたが、小ロット商品やネット通販、ギフト商品などの細かな対応を松阪パックスセンターへ集約し、製造販売の拡充を図ります。

の効率化を進めることにしました。

信頼の高い加工体制を整え、県産牛肉・豚肉を中心とした商品の加工に取り組み、需要増が想定されるインターネット通販やギフト販売の拡充を図ります。

「お肉の直売所」で 県産畜産物の情報発信

センターには、消費者に直接販売する「お肉の直売所」を併設しています。

県産畜産物のおいしさを消費者へ発信するとともに、同社の宣伝拠点として位置付け、自社の加工技術を生かした加工品の情報発信に取り組みます。

また、消費者への直接販売を行うことで、商品の評価や消費動向を把握し、試

験販売の実施などで新商品の開発に活用することも期待しています。

ネット通販や ギフト販売を拡充

4月30日から稼働したセンターは、県産牛肉・豚肉を使用し、季節の贈り物としての「ギフト商品」、バーベキューなどのレジャー向け「焼肉セット」や「たれ漬商品」、飲食店事業者向け食材などを製造しています。7月からは、「JAタウン」内に業務向け商品を取り扱うショップも開設しました。

直売所では、県産銘柄の「松阪牛」や「伊勢うまし豚」の精肉、ハム・ソーセージなどの自社加工品の対面販売を行っています。



「松阪牛」のギフト商品



小ロットに対応した松阪パックスセンター

今後、HACCP手法による品質管理の導入に向け、総合的衛生管理の認証取得を目指し、安全で安心な商品の製造に取り組んでいきます。

「安全・安心・おいしい」三重県産畜産物の販売を通じて、生産者と消費者を結び懸け橋となる」との経営理念を实践するため、小ロット対応の加工場と直売所併設のメリットを最大限に生かして、県産畜産物の販売拡大につなげていきます。

JAタウン
「JA全農みえミート」は
こちらから



松阪パックスセンターに併設した「お肉の直売所」と店内

畜産事業の研究最前線 1

全農は畜産事業において、飼料畜産中央研究所、家畜衛生研究所、ET研究所の3研究所を有しています。全農ウィークリーでは、全農が発行する畜産情報誌「ちくさんクラブ21」（隔月刊）と連動し、これらの研究所を連載で紹介しています。初回は、飼料畜産中央研究所養鶏研究室です。

茨城県つくば市にある飼料畜産中央研究所養鶏研究室は、採卵鶏やブロイラーの新たな飼料開発の研究を通じて、養鶏生産者の生産性向上や経営安定化への貢献を目指しています。

長期飼育に対応した飼料の開発

近年特に力を入れてきたの



養鶏研究室の研究員

が、育種改良が急速に進んだ鶏の能力を最大限に引き出す

飼料畜産中央研究所 養鶏研究室

鶏の能力を最大限に発揮する飼料開発へ

ための飼料の開発です。

例えば採卵鶏は、産卵性能が向上し、従来に比べて飼育期間の延長が可能になっています。養鶏経営において長期間飼育できるとヒナの更新時期を延ばせるため、ヒナを購入する回数が結果的に減り、コストを抑えられるメリットが生まれます。

一方で、産卵期後半におけ

る卵殻質の低下や過大卵の増加によるデメリットも発生します。これらの問題を解消するために、休産処理を実施するケースもありますが、鶏卵の生産が止まってしまうため、理想的な手法とはいえません。

そこで現在取り組んでいるのが、休産処理を行わずに産



試験中の鶏の状態を確認

卵成績や卵質を長期にわたって高く維持する飼料の開発で



卵殻の色を測定

す。実用化すれば、卵の出荷量と製品化率が増え、鶏群の

更新を延ばせるようになりま

鶏ふん低減飼料の実用化

また、養鶏経営において、最大の課題に挙げられているのが鶏ふん処理です。毎日発生する鶏ふんを処理するには多大な手間とコストがかかるため、鶏ふんが減れば大きな

メリットになります。最近、当研究室とJA全農北日本くみあい飼料(株)とで共同開発し、同社から鶏ふん低減飼料の販売を始めました。同社の管内では好評を得ています。今後も現場で役立つ研究開発を行っています。

一方ブロイラーの分野では、育種改良によって以前と比べて成長速度が大幅にアップしました。ブロイラーの1日の増体重は、2006年の56・6gに対して、16年は63・3gに達しており、現在も増加しています。

育種改良に伴い、最適な飼料の栄養成分や飼養管理法も変わります。研究所では、育種改良の最新情報を入手し、鶏の能力を十分に引き出す飼料の開発と飼養管理技術の確立に取り組んでいます。

【畜産生産部】

次回は、飼料畜産中央研究所品質管理研究室を紹介する予定です。(10月頃掲載予定)

農業の大切さや全農の役割

ただいま

発信中!

全農は平成23年度からベネッセコーポレーション(ベネッセ)と提携し、「食農育」に関する理解促進に取り組んでいます。ベネッセ発行の20〜40代の主婦に人気No.1の月刊生活情報誌「サンキュ」への記事掲載や、毎月平均1600万アクセス数がある関連ブログ「ロコミサンキュ」の人気ブロガー10人を「全農ブロガー」に認定しています。全農ブロガーの皆さんにはさまざまなイベントや勉強会に参加してもらい、その様子をブログで発信してもらっています。今後のブログ記事にもぜひ注目ください!

【広報部】

全農ブロガー勉強会

今年から全農ブロガーと定期的な勉強会を実施。日本の農業の大切さや全農の役割をブログ

で発信してもらっています。

5月22日に米穀部、6月26

日に生産資材部の職員が講師となり、勉強会を開催。米穀部の勉強会では、お米が収穫されて

から販売されるまでの流通経路や、お米を取り巻く状況、お米の消費拡大の取り組みなどについて説明しました。生産資材部の勉強会では、お米作りでは農業機械から米袋、カントリーエレーターなど多岐にわたる資材が必要な事、その中で全農がどのような役割や取り組みをしているかについて説明しました。

「米(マイ)・サンキュ」田植え

29年度から、神奈川県伊勢原市の田んぼでブロガーと一緒に種もみから精米・袋詰め、販売までを行う企画「米(マイ)・サンキュ」を開始。農業の大変さ、楽しさをブログや誌面で発信してきました。

今年も昨年に続き、神奈川県伊勢原市で田んぼを借りて米作りを実践。

6月17日にはブロガー親子やベネッセの担当者、総勢41人で

田植えをしました。



「米(マイ)・サンキュ」で田植えを体験

「ロコミサンキュ」ブロガー限定 JA全農親子農業体験ツアー

親子農業体験ツアーを栃木県のJAはがので開催。5月13日にトウモロコシとエダマメの植え



JA全農親子農業体験ツアーでトウモロコシとエダマメの植え付けと収穫



付け、7月22日に収穫を行い、ブロガー親子計31人が参加しました。農業の楽しさ、大変さを実感し、農家の皆さんへの感謝の気持ちも一層強くなりました。

「ロコミサンキュ」ブロガー限定 JA全農親子料理教室

東京・飯田橋の家の光レインボービルで8月1日、親子料理教室を開き25人のブロガー親子が参加。料理の楽しさや、安心でおいしい国産食材の良さ、日本の農業の大切さについて発信しました。



親子で料理教室に参加

「ロコミサンキュ」は
こちらから



全農のページは
こちらから



勉強会のため全農を訪れた全農ブロガーと米穀部職員



全農のさまざまな取り組みに関する勉強会に参加

東京大学と東北協同乳業(福島)が協同開発

「研Q室のヨーグルト ドリンクタイプ」を 新発売!!



福島震災復興のシンボルとして、当時東京大学薬学部の関水教授(現東京大学名誉教授)がキウイフルーツの果皮から分離、発見した「乳酸菌 11/19-B1 株」を使用したハードタイプの「研Q室のヨーグルト」が発売されて3年、同乳酸菌を使用したドリンクタイプがあらたに仲間入りしました。

【東北協同乳業(株)】

「研Q室のヨーグルト ドリンクタイプ」発売発表会を7月27日、東京・大手町JAビルで開きました。また8月6日からの東京大学消費生活協同組合、東京大学附属病院売店などでの発売を前に、8月1、2日に東京大学本郷オープンキャンパスで先行発売しました。

乳酸菌は自然免疫活性が極めて高く、体内の免疫力向上や整腸作用などさまざまな効能が期待されています。また、生



JAビルで開いた「研Q室のヨーグルトドリンクタイプ」発売発表会。右から 東京大学社会連携部社会連携推進課の渡邊留美子特任専門員、東北協同乳業株式会社の今谷 浩代表取締役社長、同社の佐久間博康専務取締役

乳を93%使用し、香料・安定剤不使用で濃厚な味わいに仕上げています。

ドリンクタイプについては、手に取りやすく気軽に飲めることが重宝されており、より多くの方に、ご愛飲いただければと期待しています。

今後も福島県における東日本大震災に伴う教育活動支援などのため、姉妹品となる「11/19-B1 乳酸菌ヨーグルト」と合わせ引き続き寄付を行います。



東京大学本郷オープンキャンパスで「研Q室のヨーグルトドリンクタイプ」を先行発売

JA全農
ZEN-NOH

**JA全農
オフィシャル
アプリ**

トピックス ポイント クーポン

「食と農」の情報を広く消費者へ!
スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実! 作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン
シヨップ紹介

JAタウン |

検索
クリック

JA岡山西 星の郷特産館



瀬戸ジャイアンツ
(1房700円?)5200円

JAタウンは
こちらから



JA岡山西管内の井原市は岡山県の西南部に位置し、西は広島県に接する瀬戸内の温暖な気候に恵まれた西日本有数のブドウの産地です。

ハウス栽培から露地栽培まで多くの種類のブドウが栽培されています。その中でも人気品種の「瀬戸ジャイアンツ」は、糖度が高く酸味は控えめ。また、種がなく皮がとても薄いので皮ごとまるごと食べられ、みずみずしくパリッとした食感が楽しめます。種や皮を気にせず食べられるので、フルーツサラダやケーキのトッピングなどバリエーション広く楽しめるのも人気の一つです。

この機会にぜひ、「瀬戸ジャイアンツ」をご賞味ください。

なお、ご紹介した商品は、9/7(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛金引換のみ)。※天候などによりご希望に沿えない場合があります。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。商品代金の他、クール代、お届け先により送料がかかります。※発送は9月15日頃から予定しています。

JA全農のインターネット ショッピングモール ▶ご注文は <http://www.ja-town.com> ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。